

令和7年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	4	議席 番号	13	氏名	辻 村 岳 瑠 議員	1 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
1	クマ出没対策における市の現状と体制強化の方針について	近年、全国的にクマの出没や被害が増加し、本市でも目撃が相次いでいる。2025年の鳥獣保護管理法改正により、自治体が緊急に銃猟を行うことができるようになったことを受け、本市としての現状認識と今後の対応方針を以下伺う。 (1) 本市で見られているクマの出没について、どんな傾向があるのか。また、富士地区のクマの特性を踏まえ考えられる対策があるのか伺う。 (2) クマの出没が増加する中、本市でも市内イベントへの影響が見られる。また、こどもの通学やウォーキングなど、市内で確認できているクマによる日常生活への影響について伺う。 (3) 改正された鳥獣保護管理法は、緊急時に市町村長が銃猟を行うことができるなど、自治体に初動対応が求められる。改正に基づく緊急銃猟の判断・運用をどのように想定しているか。また、実際の現場対応に向けた指揮命令・情報共有体制の整備状況について伺う。 (4) 県、警察、猟友会など関係機関との連絡・協定体制はどのように構築しているか伺う。併せて、緊急時の指揮命令系統や判断の責任主体（市長・担当部署）を明確にし、現場対応が滞らない体制づくりをどのように進めているか伺う。 (5) 緊急銃猟に従事する猟友会や職員の安全などに対する保険、手当及び人材の補充についての考えを伺う。				市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長
2	子ども会と地域福祉を支えるための柔軟な支援制度の構築について	地域においては、これまで個別の“点”としての取組が積み重ねられてきた。今後は、それらを“線”で結び、さらに地域全体で支え合う“面”へと発展させる、いわゆる重層的支援体制型の地域福祉が求められている。 少子高齢化や地域のつながりの希薄化といった社会構造の変化により、地域福祉の重要性は一層高まっている。これからの福祉行政には、個別の“点”をつなぐきっかけを創出し、地域が自ら“面”として広がっていくような福祉施策の推進が求められる。 こうした中、少子化やライフスタイルの変化により、「こどもの環境」、特に子ども会という社会資源の活動基盤が弱まりつつある。我々の世代は、子ども会を通じて地域とのつながりを学び、その重要性を今も実感している。 そして、それを次の世代に引き継ぐ責任を強く感じている。政治・行政においては、子ども会が果たしてきた役割を再認識し、その自主性を尊重しつつも、地域福祉の観点から支援を行うことが求められている。 かつて自分が経験したことを、今のこどもたちにも経験させたいと願う親や市民は大勢いる。こうした思いを踏まえ、子ども会が主体的に活動できるよう、支援の在り方とそのバランスについて考えを伺う。				市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長

令和7年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	4	議席 番号	13	氏名	辻 村 岳 瑠 議員	2 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
		(1) 子ども会をどのような役割を担うものとして位置づけているのか。また、今後どのように支援していくのか伺う。 (2) 社会構造の変化により、“点”の取組を継続することが困難になっている。今後は、こうした既存の事業を結びつけ、地域が自ら“面”としての福祉へと発展させる発想が求められる。例えば、寄り合い処と子ども会といった異なる拠点をつなぐことや、子ども会同士の地域間連携など、「点を線で結び、面に広げる」地域福祉の在り方についてどのように認識し、施策へ反映していく考えか伺う。 (3) 富士宮市子ども会事業補助金における現行の「30人以上」といった基準は、少子化が進む地域においては、申請が困難な場合がある。補助金検討部会において見直しが行われたことは承知しているが、地域ごとの実情に応じた、より柔軟な制度への再検討をお願いしたいと考えている。 その際に、考えていただきたいのは「数」による量的な平等だけでなく、質的側面の支援についてである。重要なのは「こどもを楽しませられる地域」を作るという視点であり、単に人数の多さにとらわれることなく、地域がどれだけこどもたちに喜びや学びを提供できるかという、質的な要素を重視した支援制度への見直しをお願いしたいと考えている。 市としてこのような質的検討をどのように進めていく考えか、見解を伺う。				